



多賀谷左近三経公奉賛会
事務局長 酒井 敏雄 さん

いま奉賛会では、あわら市でも多賀谷時代行列のようなお祭りができないか、いろいろと計画を練っているところですが、今後は、多賀谷時代まつりへの定期的な相互訪問などを通して両市の交流が進めばいいと考えています。

また、多賀谷左近三経公は、地元では「かきばらのと」のさま」として親しまれ、市内小学校の社会科副読本の中にも取り上げられています。この姉妹都市提携をきっかけに、ぜひ小中学生の交流を進めばいいですね。



多賀谷時代まつり
実行委員長 川澄 次男 さん

あわら市と下妻市がつながったことは大変意味深いもので、この縁をきっかけに市民同士のさらに深まった交流ができればと思っています。

まつりを通して両市が交流することで、子どもたちに歴史的な背景も含めて、このまつりを知ってもらい、市民参加に広がっていかれたらと考えています。

平成28年4月のまつりは、市民主導の開催になって10回目の節目を迎えます。あわら市からの参加も大歓迎です。一緒に盛り上げていきましょう。

あわらと下妻をつなぐ



通如上人御駈道中(吉崎御坊で)



あわら温泉



観月の夕べ(北湯湖で)



金津創作の森



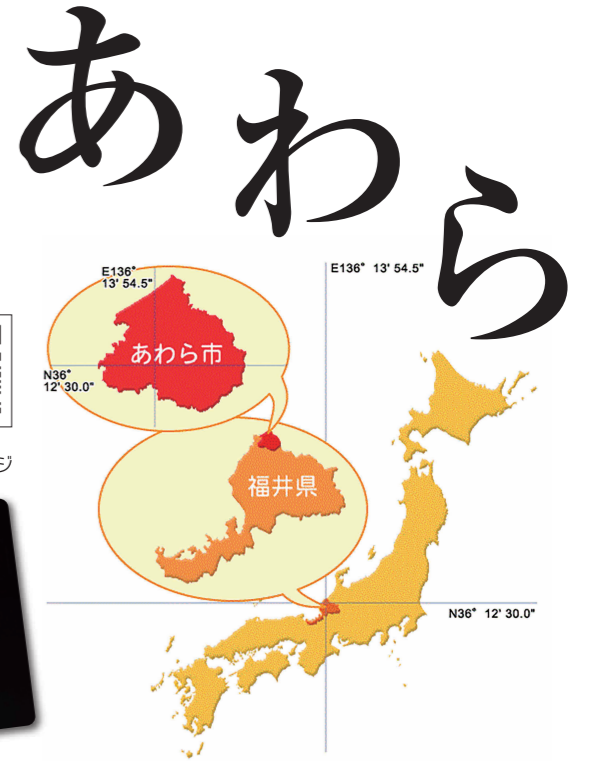
カヌーボロ(北湯湖で)



越前かに



あわら市
ホームページ



項目	概要	人口	面積	財政力指数	将来都市像	まちの特色	市町村合併	特産品	観光	イベント	姉妹都市	シンボル	市章	位置
福井県 あわら市	福井県の最北端に位置。温泉を中心とする観光のまち芦原町と、産業と農業が盛んな金津町が合併し誕生。北陸自動車道金津インターチェンジは県の北の玄関口で、周辺工業団地には優良な製造業が集積しています。 明治期に発掘された福井県随一の温泉観光地であるあわら温泉には、年間約80万人の宿泊者が訪れ、関西・中京の奥座敷と呼ばれています。 現在は、北陸新幹線の福井県内延伸を控え、首都圏や関東、信越方面からの観光客を呼び込むため、温泉街やJR芦原温泉駅周辺でのまちづくり事業を急ピッチで進めています。温泉街の修景整備事業等を通して、観光地としての付加価値を高め、観光客や市民が歩いて楽しめる温泉情緒あふれる華やきに満ちた観光地を目指しています。 また、南部平坦地は良質米の産地となっており、ほか北部丘陵地ではスイカ、メロン、トマトなどのハウス栽培や平核無柿(種無し柿)の栽培が盛んであり、ミディトマト「越のルビー」や「越前柿」のブランド化等、生産物の高付加価値化に取り組んでいます。	29,164人 (平成27年11月1日現在 住民基本台帳)	116.9平方キロメートル	0.65 (平成26年度決算)	ゆうゆうと 人が輝く いやしと創作のまち	海、山、川、湖など美しい自然と豊かな農産物などの大地の恵みに満ちあふれたまち	平成16年3月1日、芦原町と金津町が合併	メロン、すいか、越のルビー(ミディトマト)、富津甘藷、越前柿、梨	あわら温泉、金津創作の森、吉崎御坊跡、北湯湖畔公園、刈安山森林自然公園	蓮如忌、芦原温泉春祭り、北湯湖畔花菖蒲祭り、金津祭り、北湯祭り、あわら湯かけ祭り、カヌーボロ大会、北湯湖畔観月の夕べ、剣岳かりんて祭り	中華人民共和国浙江省紹興市 高知県香美市	花：花菖蒲、木：梅、鳥：白鷺	あわら市の頭文字である、アルファベット小文字の「a」をモチーフにデザイン化した。緑の山並みをバックに、自然に囲まれ、黄色く輝くあわら市を表現しています。黄色は人、町、農産物の輝きを表し、ゆつたりと円弧を描いて上っていく緑のラインは、人、自然、産業が調和し、着実に発展していく様子を表現しています。	あわら市は、福井県の最北端に位置し、西は坂井市三国町、南は同市坂井町・丸岡町、そして北東は石川県加賀市に隣接し、北西は日本海に面しています。 面積は116.99平方キロメートルで、地形は北部の丘陵地、西部の平坦地、東部の山岳地帯と大きく3つに分かれており、南北に北湯湖が横たわり、東西には竹田川が流れています。
茨城県 下妻市	茨城県の南西部、東京から約60キロメートル圏に位置する水と緑の田園都市。実りある農地や平地林などの緑が豊かで、東を小貝川、西を鬼怒川が流れ、まちの中央には春には桜の名所となる砂沼があり、美しい自然に恵まれています。また、広大な田園風景の中にそびえる筑波山の景観は下妻市らしい魅力の一つでもあります。 古くからの自然を大切に育み、農業にも活かしてきた。現在でも、本市は広大で優良な農地を有しており、県内有数の農産物産出地域を形成しています。 一方、平成17年開業のつくばエクスプレスや、平成23年に全線開通した北関東自動車道、早期全線開通を目指している首都圏中央連絡自動車道など交通利便性が高まっています。 現在、空洞化が見受けられる中心市街地において、地域の活性化及び市街地再生によるにぎわいのまちづくりを目指して、都市再生整備計画事業に取り組んでいます。 また、積極的な企業誘致により新たな活力も生まれ、雇用や定住化など、若者が都市部に移り住まずとも生活できるまちづくりが着々と進んでいます。	44,856人 (平成27年11月1日現在 住民基本台帳)	80.88平方キロメートル	0.64 (平成26年度決算)	輝く自然あふれるやさしさ、活力みなぎるまちしもつま、人がいきいきがやぐまち	農・工・商のバランスのとれた、緑と水に恵まれた田園都市	平成18年1月1日、千代川村と合併	豚、梨、米、千石きゅうり、メロン	砂沼広域公園、小貝川ふれあい公園、大宝八幡宮、筑波サーキット	多賀谷時代まつり、しもつま砂沼フェスティバル、下妻まつり(千人おどり、花火大会)、小貝川フラワーフェスティバル、花とふれあいまつり、鬼怒川流域交流Eポート大会、砂沼マラソン大会		花：菊、木：松	昭和29年7月1日制定。「下」の字に躍進の意をこめて、右上がりとし、躍進にともなう行き過ぎと闘争を自覚し、円満協調を図らなければならぬという意味を含んでいます。	下妻市は、茨城県南西部、東京から約60キロメートル圏に位置し、北は筑西市、南は常総市、東は筑波研究学園都市と筑西市、西は結城郡八千代町にそれぞれに接しています。 面積は80.88平方キロメートルで、正方形に近い形状をしています。その大半は、比較的肥沃な土地で形成され、中央に砂沼、東に小貝川、西に鬼怒川と水資源も豊かです。

あわら市と下妻市のあらし